

かめっ子だより No.202

令和8年2月27日
八尾市立亀井小学校
校長 柴山 八寿夫

子どもの命を守るのは、設備ではなく『教職員の安全意識』

19日(木)、学校内に不審者が侵入した時を想定しての避難訓練を行いました。教員が不審者役になり、児童のいる教室に向かおうとしています。気づいた教職員が職員室に伝え、児童は教室の鍵を閉め安全な場所で静かに待機したり、隣の教室へ避難したりしました。

今から25年前、大阪教育大学附属池田小学校で痛ましい事件が起きました。以前は開け放たれていた学校の門が閉じられ、鍵がかけられるようになったのも、この事件がきっかけです。現在では、受付員の方の配置や監視カメラの設置など、不審者の侵入を防ぐための対策がとられていますが、それでも侵入があったという事件が、全国のニュースでも報道されています。



大阪教育大学附属池田小学校では、安全管理については「子どもの命を守るのは、設備ではなく『教職員の安全意識』である」との思いで取り組んでいます。本当にその通りだと思います。

亀井小学校でも、実際に不審者が侵入してしまった場合の訓練を、こうして定期的に行うなどして、子どもたちの安全を全力で守るための取り組みを進めています。

またまた、「ミニ避難訓練」を実施！

26日(木)、朝の学習の時間を利用し「ミニ避難訓練」を行いました。1月にも行いましたが、今回は“教職員がいない場合”の設定で実施しました。ほとんどの児童は教室内にいたので、緊急地震速報が聞こえた途端、速やかに机の下に隠れていました。地震はいつ、どこで起こるかはわかりません。しっかりと対応できる力を身につけてくれることを願っています。

